



はじめに

台湾生活をやめて日本に帰国したら、台湾の何が懐かしくなるか？ 長々住んでいると、よくこんなことを聞かれます。大好きな臭豆腐も果物も、通い詰めている足裏マッサージ店も友達も、なくなったら寂しい。だけど、ちょっと台湾にいたくらいでは味わえない、台湾らしい時間の流れ、空気感、これがなくなったら身悶えしそうです。台湾特有のシステムというか、生活の中で体験する日本と違う台湾のスタンダード。それらが作る空気感が私をいつまでも台湾に惹きつけてくれます。

この本を書いたのは、そんな空気のコもった「生活の中の台湾が見える」というテーマのお話を紹介したくなったからです。この台湾ブームに、黙ってガイドブックを書いていけばいいのに……。

とはいえ、最近は台湾に来る人が増え、台湾好きが高じて住み着いたり、台湾と仕事を始める人も増えています。

そんな人たちの予備知識にもなり、旅行で触れた台湾の謎が気になって仕方ない人にも読んでもらえればと思いました。



さらに、とはいえ。はたして台湾にスタンダード(基本)があるのか。だって、交通ルールの基本中の基本である信号も「参考而已(参考にする程度)」^{ツァンカオアアアア}と言い放ち、道路を自分流に使う人もいる。お役所仕事も担当者によって基本がバラバラ。ゆるかったり、厳しかったりします。ごはん屋さんでもメニューにないものが注文できたり、と台湾の基本はグニグニです。臨機応変にその時々で、人と人とのやりとりで変わります。諸悪の根源は、すべてが人情重視から始まっていること。加えて、てんこ盛り・便利好きが優先されるので、少々不恰好になることもあるのが台湾です。



ここでは、こうした間違いのないという注意事項も書いてあります。台湾暮らしの手引書でもあり、日本と違う台湾で起こる謎を解くための参考書でもあります。旅行で体感する「近くて、おいしくて、癒される台湾」から、「興味を持って、付き合っ、生活の中の台湾」へ。面白い隣人の基本は、私たちの頭をグニグニに揉みほぐしてくれます。

